

まえがき

20 世紀末のスラブ・ユーラシア地域における政治・文化的アイデンティティの変化を受けて、現代のロシア文化研究は、対象地域の捕らえ方から研究分野や手法のあり方まで、さまざまな試行を迫られています。

ロシアをいろいろな地域枠組みの中で弾力的に捉える「跨境的」アプローチ、またいわゆる文化芸術の諸学のほかに、地理、歴史、文化人類学、教育学、思想史、ディアスポラやジェンダー研究といったさまざまな分野の手法を参照して行う「ジャンル横断的」アプローチが、今日ほど有効な時はないでしょう。われわれの共同研究も、可能な限りそうした方向のチャレンジを意図し、また国内外のさまざまな研究集団との協力や連携を試みています。

本論集の元になった合同研究会『文化研究と越境：19 世紀ロシアを中心に』（2007 年 3 月 3 日(土)4 日(日)スラブ研究センター）も、「スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム」（科学研究費基盤研究 A）、「19 世紀研究会」、「越境と多文化」（日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト V-1、第 2 グループ）の 3 研究集団の協力プログラムでした。上記の趣旨にたがわず、地域としては北方のアルハンゲリスクから南のクリミア、アブハジア、さらにはエジプトまで、テーマとしてはナポレオン論から色男論まで、たいへんにぎやかな研究会となりました。

本論集はその成果のうちで、近代ロシア文化史の観点から見て興味深いものを中心に収録しました。ご一読の上、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

2008 年 2 月

スラブ研究センター

望月哲男